

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

昭和火口では、2月1日から5日にかけて爆発的噴火¹⁾を含む噴火²⁾が断続的に発生しました。これ以降、昭和火口及び南岳山頂火口では爆発的噴火や小規模以上の噴火は発生していません。火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いており、山体の膨張を示す地殻変動も観測されていません。これらのことから本日（19日）15時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3から2に引き下げました。今後、昭和火口及び南岳山頂火口から1km程度の範囲に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、これらの火口周辺では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。なお、昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

○活動概況

・噴煙活動の状況（図1）

昭和火口では、2月1日から5日にかけて噴火が22回（爆発的噴火は13回）発生しました。これ以降、昭和火口及び南岳山頂火口では爆発的噴火や小規模以上の噴火は発生していません。

・地震及び微動の発生状況（図1）

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いています。

・火山ガスの状況（図1）

2月9日に行なった現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり1,200～1,500トンと、前回（2月2日：600～1,600トン）と比べて大きな変化はなく、やや多い状態で推移しました。

・地殻変動の状況（図2～4）

GPS連続観測では、山体の膨張を示すような顕著な地殻変動は認められません。なお、国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いています。

有村観測坑道（九州地方整備局大隅河川国道事務所）の水管傾斜計では、2月上旬の噴火活動に伴い、火口方向が沈降する傾斜変動が観測されました。

- 1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが1,000m以上）の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火としています。

※この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平20業使、第385号）。この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）、福岡管区气象台ホームページ（<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>）で閲覧することができます。

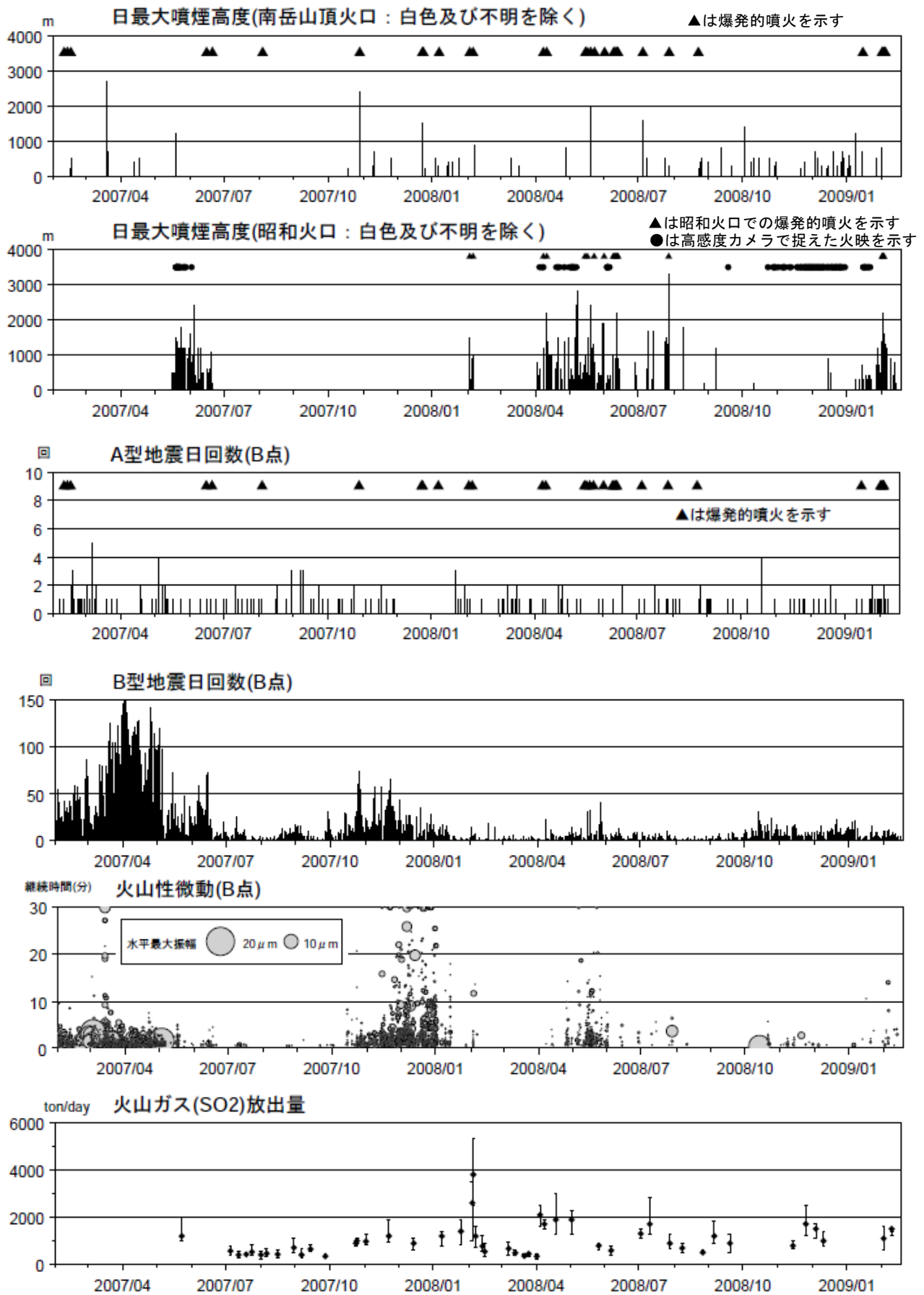


図 1 桜島 火山活動経過図 (2007 年 2 月 1 日～2009 年 2 月 17 日)

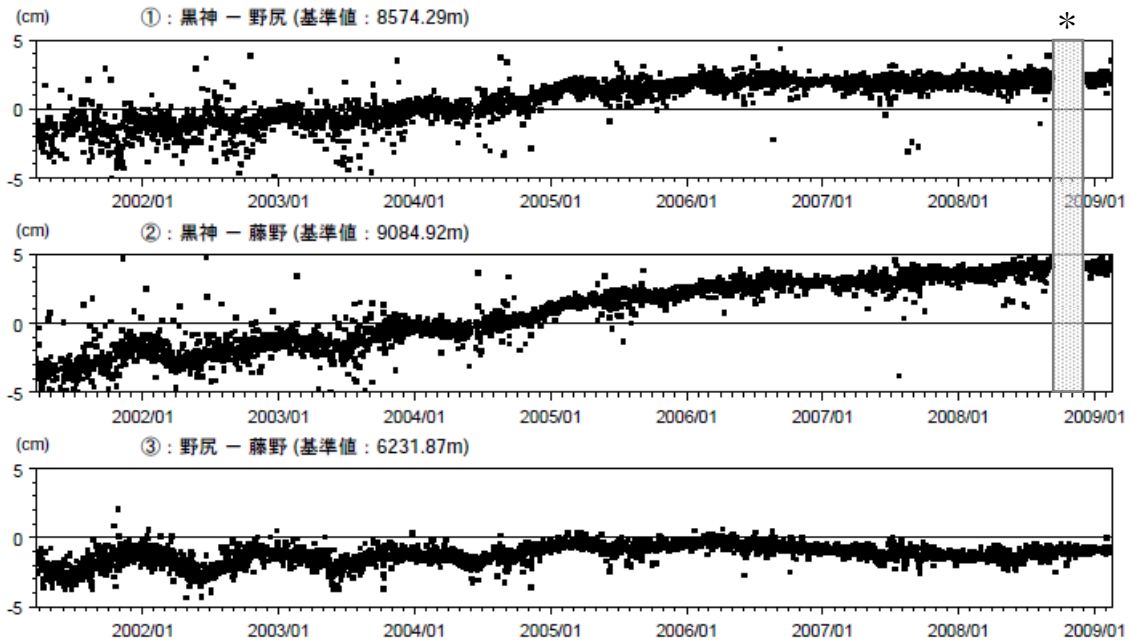


図2 桜島 GPS 連続観測による基線長変化 (2001年3月23日~2009年2月17日)

* 黒神観測点は2008年9月9日から2008年12月9日まで機器障害のため欠測。

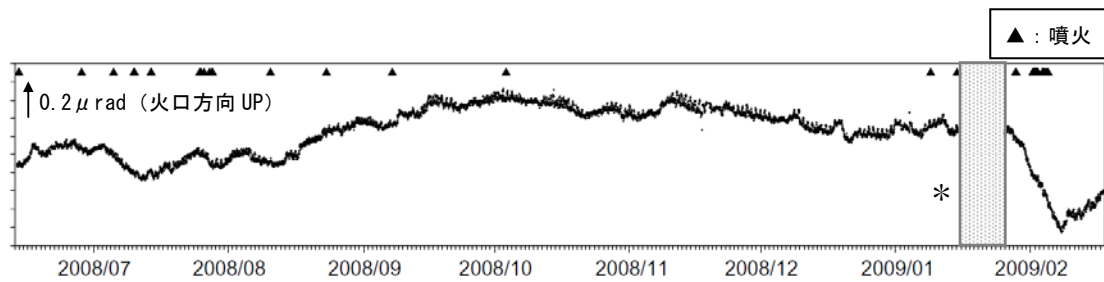


図3* 桜島 有村観測坑道水管傾斜計による傾斜変動 (2008年6月13日~2009年2月17日)

*2009年1月15日から25日まではメンテナンスによる。

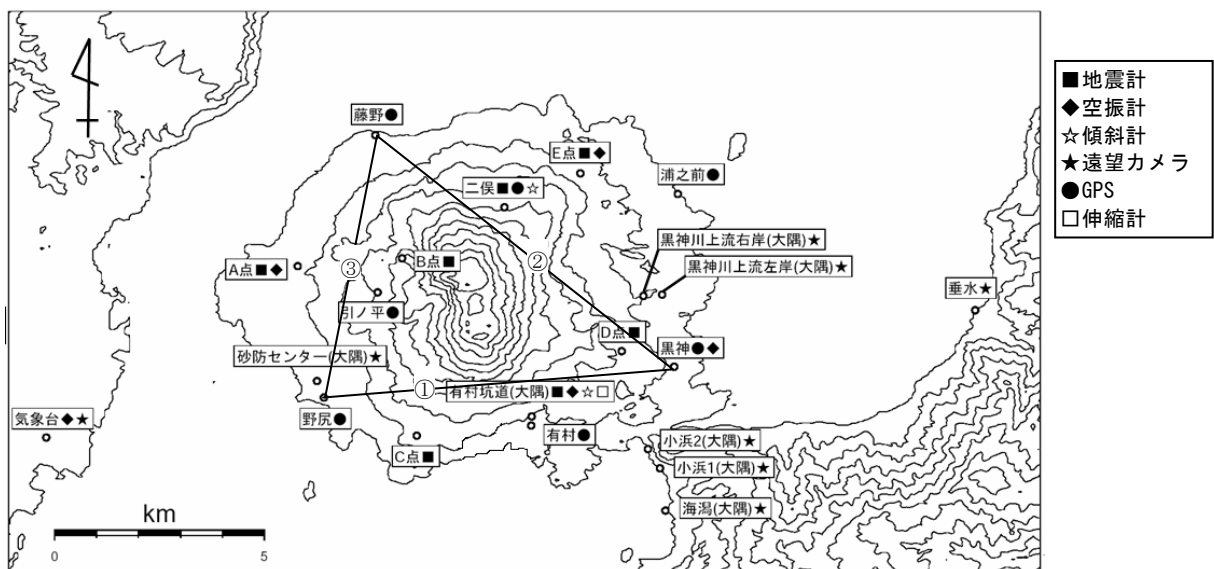


図4 桜島 観測点配置図

①、②、③は図2のGPS連続観測の基線に対応します。